令和3年度 全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会



全国役員·都道府県代表者 連絡協議会

講師プロフィール

2021年

11月20日土 10:20-14:40 (オンライン研修会)

「社会の中で自分らしく、笑顔で暮らしていくために ~心に寄り添うサポートとは~」



- ・ 高等部段階の進路選択について
- ・ 「安心して、共に歩める進路先」とは
- コロナ禍での就労
- ・・キーワードとまとめ

<基調講演> 株式会社 テイクアンドギヴ・ニーズ 宮崎 家光 様

全国でウェディングプロデュースを手がける婚礼最大手の株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ。

障害者雇用においては、障害者が充分に力を発揮できる適切な就労機会の拡大と、都立特別支援学校の 就労支援(インターンシップ)への貢献が評価され「東京都教育委員会事業貢献企業」等、数々の賞を受賞 されています。 [次ページに掲載]

そのような障害者雇用の基盤を築いてこられた宮崎様は、東京都の「特別支援学校就労支援アドバイザー」に選出され、現在は多くの学校でご活躍されています。

<パネルディスカッション>

株式会社 テイクアンドギヴ・ニーズ 宮崎 家光 様

<略歴>

第

1

部

◎全日空エンタプライズ

『障害者職業生活相談員』の資格取得する(人事部門責任者)

OFIFA

ネリ

ス

パネリス

『2002日韓ワールドカップ』を担当する(ベニューマネージャー=会場責任者)

◎クーバーコーチングジャパン

『サッカーメソッド(幼児から中学生)』を手掛ける

◎株式会社テイクアンドギヴ・ニーズ

人事・内部監査室・オペレーション統括部長、総務部長を担当する 2008年より障がい者雇用プロジェクト責任者とし現在に至る 2008年より特別支援学校企業実習受入れを開始する 東京都立の特別支援学校の学校運営連絡協議会委員、評価委員を担当する

東京都教育庁就労支援アドバイザーを担当する

全知P連 顧問 木村 加代子 様

<略歴>

2012年度~ 東京都立王子第二特別支援学校PTA 会長

2016年度 東京都知的障害特別支援学校PTA連合会 会長

2017年度~ 東京都立王子特別支援学校PTA 会長

2017~2019年度 全国特别支援学校知的障害教育校PTA連合会 会長

2020年度~ 全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会 顧問



東京都立矢口特別支援学校 副校長 安田 賢 様

<略歴>

2003年4月 東京都立清瀬特別支援学校教諭として着任

2008年4月 東京都立港特別支援学校に異動

2009年4月 同校進路指導専任として進路業務に従事

2015年4月 主幹教諭として同校職能開発科 開設に携わる

2021年4月 東京都立矢口特別支援学校副校長として着任

◎第16回「がんばれ先生! 東京新聞教育賞」受賞 [次ページに掲載]





detail



宮﨑様(パネリスト)



安田様(コーディネーター)



木村様(パネリスト)



安田先生には進路主任時代の豊富な経験を活かし、コーディネーターをお任せいたします。進路指導では生徒・保護者のみならず、宮﨑様はじめ実習先からも高い信頼を得てきた安田先生のコメントに注目です。

◎「がんばれ先生! 東京新聞教育賞」受賞



出会いと取組み



宮崎様との出会いは2009年、生徒の実習先を探す一本の電話が始まりです。当時、駆け出しの進路担当である私に、障害者雇用はもちろんのこと、障害者を取り巻く社会を変えていくイメージをいつも共有してくれました。

それは、『社会の変化』を待つのではなく、 小さくても『行動を起こす』ということです。 新たなチャレンジをする時には、必ず宮崎様に ご協力をいただきました。

その小さな取組みが地域社会や他企業の共感を生み、様々な形となって社会へ発信できるものに変わっていきました。それが前任校で進めてきた、保護者向けの学習会であり、企業とのパートナーシップを築いた実習です。



取組みの成果

・平成27年度「東京都教育委員会事業貢献企業」 テイクアンドギヴ・ニーズ 受賞

https://kyodonewsprwire.jp/release/201601257289





・令和元年度「第9回キャリア教育推進連携表彰」都立港特別支援学校職能開発科優秀賞受賞

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/141 3996_00001.htm







宮﨑様には基調講演に引き続き、パネリストもお勤めいただきます。クリーンスタッフと呼ばれている障害者ひとりひとりの強みを活かすために取り組んでおられるお話は、とても魅力的です。安田先生とは長年のコンビで息もピッタリです。



『クリーンスタッフの仲間たち』

施設のバンケットやチャペル、ガーデンなどの清掃業務を担当する、彼らのいきいきと自信をもって働く姿をぜひ、ご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=oCopOf_TmsM





木村様には全知 P 連で会長職を 3 年に渡りお勤めいただきました経験を活かし、保護者代表として、パネリストをお勤めいただきます。 お子様の就労までの体験を織り交ぜながら、お話しを伺います。



お子様のご紹介

2008年4月~2020年3月

- ・小1から高3まで、東京都立の特別支援学校に在学
- ・高等部2年から一人通学を開始 (高1は付き添い通学で練習)
- ・実習は特例子会社と就労継続B型の両方を経験
- ・コミュニケーションは、主に単語、短い言葉のやり取り
- ・手先が器用

2020年4月~

・就労継続B型に通所

「農福連携について考える

~障害のある人たちの社会参加と仕事の場~」



<パネルディスカッション>

パーソルサンクス株式会社

神奈川事業本部 よこすか・みうら岬工房 マネジャー

岩﨑 諭史 様

滝坂 信一 様

2007年3月 精神保健福祉士資格取得後、NPO法人に勤務して就労 継続支援B型の管理者として、障害者の就労支援に従事。2018年4月 総合人材サービス パーソルグループの特例子会社 パーソルサンクス 株式会社に入社、よこすか・みうら岬工房の開設に携わる。地域からの 見学・実習を積極的に受け入れ、障害のある社員の雇用を28名まで拡 げ現在に至る。現役職 よこすか・みうら岬工房 マネジャー 精神保健福祉士 JGAP指導員 <資格>



ネリス

第

2

部

パネリス

株式会社ピーカブー 代表 石井 亮 様

高校卒業と同時に夜間専門学校に通いながら、テニスコーチとして 約6年働く。

結婚を機に奥さんの家業である農業に転職する。

約6年前からカブの生産を始め、2020年に株式会社ピーカブーを 設立し、カブ専門農家として奮闘中。

農福連携はパーソルサンクスと共に持続化を目指し現在3年目に至る。



ネリ ス

神奈川県立武山養護学校 統括教諭 山﨑 永子 様

フェリス女学院短期大学音楽科卒業、同大学ディプロマコース修了。鎌倉女 子大学短期大学部初等教育科卒業。

社会福祉法人なごみ福祉会療育スタッフを経て、神奈川県立の特別支援学 校で30年間、小学部から高等部まで主に知的障害教育部門にて教育実践 を積む。

現在、神奈川県立武山養護学校総括教諭。支援グループリーダーとしてグ ループ業務を総括する他、教育相談コーディネーターとして、地域の巡回相 談や福祉、行政との連携等、地域支援に携わりながら切れ目のない支援の 充実について日々奮闘している。



独立行政法人 国際協力機構 横浜センター 技術顧問

東京学芸大学修士課程修了。 独立行政法人 国立特殊教育総合研究所 (現・独立行政法人国立特別支援教育 総合研究所) 総括主任研究官、東京農業大学教授、帝京科学大学教授を歴任。 ≪研究テーマ・関心≫

- 1. インクルーシブ教育・特別支援教育:多様な学習ニーズに応じる地域の学校
- 2. 発達と障害: 「身体」と「自己意識」の発達と障害
- 3. 支援論:「障害」と家族支援・地域生活支援
- 4. 治療的乗馬: 馬をパートナーにした障害のある子どもへの心理・教育的な対応





関係性&趣旨説明



神奈川県立武山養護学校高等部生徒がパーソルサンクス 株式会社に実習に行っています。また、卒業生がパーソル サンクス株式会社の社員として地域の農家で働いています。

◎株式会社ピーカブー

- **ピーカブー**は三浦の農家が丹精込めて作った野菜を消費者に届けたいと思っています。かぶづくりを通して、三浦の農業の 未来を確かなものにしていければと考えています。
- SHOP PEEKABOOの隣にあるのがバックヤードです。ここで作物の仕分けや洗浄などの出荷作業を行っています。
- かぶの分別、束ね、個数管理などの作業はセンサーやオートメーションシステムなどテクノロジーを使っており、女性や高齢者など誰もが容易に作業できるよう環境整備に努めています。実際に地域にお住いの障がいのある方がここで働いています。









葉の先までみずみずしく、色鮮やかな三浦かぶ(商標登録済み) ■ 👣 🔳



◎パーソルサンクス「よこすか・みうら岬工房」

- 2018年10月、全国初の自治体と特例子会社による農福連携協定に基づき設立されたのが「よこすか・みうら岬工房」です。
- 三浦半島では、大規模な農園運営から家族農業まで、大小さまざまな営農スタイルがありますが、どこも共通で抱えているのが高齢化と人手不足です。
- 工房のメンバーが手助けすることで、農業の担い手の不足を解消しつつ、障がいのある人々の働く場所を広げていくのが 農福連携の大きな目的のひとつです。業務契約をしている農家でパーソルサンクスの社員(障害のある方)が働いています。



<畑の雑草を取っています>



<かぶの葉をきれいに整えています>





農業を通じて障がいのある社員の人間的な成長と自立を、指導スタッフが支えていきます。

全知P連が「農福連携」の研修会を行う理由

2019年6月、省庁横断の農福連携等推進会議で取りまとめられた「農福連携推進ビジョン」には、2024年までに3,000の新たな農福連携の取り組みを全国で創出すること等が目標として掲げられました。その取り組みを促進するアクションとして、農福連携に取り組む機会の拡大がうたわれ、その一つに「特別支援学校における農業実習の充実」と文章化されていたことに全知P連として注目し始めました。

そこで、同年の第20回全国役員・都道府県代表者連絡協議会で、農福連携の基礎的な知識から、SDGs (持続可能な開発目標)における位置づけ、考えていく必要があることまでを、ワークショップを通して学び合いました。また、農福連携の推進には、障害のある人が働きやすい環境整備や農業版ジョブコーチ等の仕組みづくりと導入が課題であることもわかりました。

2021年の定時総会後の研修会で、上記の課題を見つめたパネルディスカッションを企画していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止せざるを得ませんでした。一方、第20回協議会の参加者の中には、ご自身が勤務する食品会社で栽培している地元産の食材を地元の就労継続支援事業所の利用者と一緒に栽培できないだろうかと会社役員に農福連携の趣旨や取り組みを説明し働きかけた結果、実現できることになったという方もいらっしゃいました。このようなことから、障害者の自信や生きがいを創り出し、社会参画を実現する取り組みである農福連携について再度学び合う機会をうかがっていたところ、本日、このような形で開催できる運びとなりました。